

岡崎の言い淀み “Hedge” in Okazaki

(Ver. 1.1)

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

井上史雄

INOUE Fumio,

平成 26 年 6 月 9 日

9 June 2014

目 次

解説

グラフ

1. 「あの一」 グラフ解説

要旨

今回は調査の回答（反応文）の文体要素のうち、言い淀みの「あの一」に関して報告する。第3次調査で忠実に文字化されたために、この内部での分析は信頼できる。心理的な距離感の生じそうな場面で多く使われること、高年層が多く使い、かつ女性に多いことが読み取れた。広義の敬語、つまりポライトネス、待遇表現、敬意表現との関連が認められる。今後他の言い淀みに考察を広げ、また「丁寧さ」などとのクロス集計も行う必要がある。

第1次第2次の調査でも同様の結果が得られた。第3次調査にかけて多く使われる傾向が見えたが、これが文字化の忠実さによるかは、証明が難しい。ただ第1次調査で言語研究者 P と大学生 C との間に差がなかったのは、注目すべきである。これまでの分析で丁寧さや文の長さや「テイタダク」の使用率に大きな差が見られた。これは調査員の書き取りの忠実さによるのではなく、回答者の態度の違いによるものという可能性が大きくなったからである。この点はさらに検証する必要がある。

解 説

0. はじめに

この報告書は、「日本語の大規模経年調査に関する総合的研究」の逐次報告であり、国立国語研究所がこれまで半世紀以上にわたって継続した岡崎敬語調査に関する資料集である。今回は調査の回答（反応文）の言い淀みの表現に関して報告する。英語の社会言語学、談話論でいう *hedge*, *filler* にあたる在来の日本語を使う。術語として、いわば作業原則としてとりあえず使用する。その実質（意味分野）は、今後の研究の過程で定めるべきである。

最初に手がけたのは「あの一」である。

この報告書の図 2-1 の生年実年代によるグラフからは、多くのことが読み取れる。これまでの報告では「あの一」は正面から分析されることはなかったが、敬語と関連のある現象

と見られる。結果をみると、場面による差があり、回答者による違いもある。それぞれ論理的に説明ができる。心理的距離表示に活用されていると思われ、ポライトネス理論によって位置付けることができる。さらに杉戸（1983）のとらえる「注釈」（メタ談話）との関係も浮かび上がる。

下記のとおり事情で第3次調査では忠実に文字化されたために、精細な分析に値する。ただし単純な経年変化を論じる資料としては用心すべきである。しかし高年層ほど使用が多い点などは、老人学の談話研究にも貢献できる成果であり、多面的な分析が可能である。

以下では、個別のグラフの解説を加える。グラフの読み取り方については、過去の大規模経年調査資料集で解説したので、今回は省略する。

周辺用語の整理

ここでは「言い淀み」という日本語の日常用語を採用した(土屋 2000)。談話論の術語になった英語の **filler**, **hedge** にあたる。周辺概念とからめて整理しよう。「言い淀み」は、談話標識の一つである。談話標識には、これまでさまざまなものが指摘されてきた。今回取り上げた「あの一」は

談話標識としての「言い淀み」は、語彙的なものと非語彙的なものに囲まれて、3段階の真ん中に位置する。「言い淀み」の典型と言っていいだろうが、似た機能を有するものに、注意喚起の「すみません」の一群がある。予備的考察の結果、類似の動きを示すことが分かった。今後分析を広げる予定である。

1. 関連概念として **place holder** がある。「語彙形式の代わりとして用いられるフィラー」で、日本語で言えば思い出せないときに使う「あれ」「なに」のような疑問（不定称）代名詞の類にあたる。辞書に載り、意味記述もあり、品詞分類も確立している。（関連分野で異なった意味で使っているものとかち合うが）代用表現とも呼べる。

2. 「言い淀み」は「フィラー」**filler** という外来語で導入された（山根 2002）。**Hedge** を直訳して「垣根」という人もいる。「ええと」「あの」「その」「まあ」「んー」など、発話の合間にはさみこむ言葉を言う。辞書に載るが、（名詞や動詞・形容詞に付くような）具体的な意味記述はない。

3. ほかに「あーうー（アーウー）」（アーウー宰相¹=大平首相）などと表現される現象も「言い淀み」と呼ばれる（後藤他 1999）。「ちゅうちょ標識」と呼ぶ人もいる（北野 2014）。これは語彙的でなく、辞書にふつう載らない。末尾母音を伸ばす現象は、男性に多い。女性はこの代わりに「尻上がり」と呼ばれる上昇下降イントネーション（「それでエ、あたし

¹ 自身は「戦後で一番長い間外務大臣をやらせていただきましたが、外務大臣の答弁は下手に言えないので、あーといいながら考えて、うーと言いながら文章は考えてその癖がついてしまったが、悔いはございません (笑)」と発言している。この「あーうー」は当時流行語にもなり、物まねする子供も多かった。(wikipedia)

がァ」などと表記される)を使うことがある。これは超分節的 **suprasegmental** 現象として、「あーうー」とは同列に扱われないことが多い(井上 2008)。「んー」もこの類に入る。

4. 関連現象としてあいづち(言語的なおよび動作としての)がある。ふつう(二人以上の)対話で使われるが、独話で一人で「はい」「ん」と言ったりうなずいたりすることも観察される。

実際の談話ではこれらが混ざって使われる。また歴史的には 1 から 2 へ、さらに 3 へ転化したものがある。文法化の先にある現象として「ファティック化」を指摘したことがあるが(井上 2011)、その言語変化の 1 種である。1 と 2 の中間、混交として、「いわゆるそのー」「いわばこのー」などがある。2 と 3 の中間には「あの一ほら」のような混交、「えーっと」「えーと」「えー」のような連続態もある。このような事情があるので、「言い淀み」**filler, hedge** を、周辺概念と明確に区切って定義するのは困難であるし、生産的ではない。ここで扱う岡崎敬語データも、多様な言い淀み表現を含んでいる。とりあえず敬語や敬意表現、談話の分析と関連させての分析を遂行する。その結果から逆に(帰納として)理論的整理が生まれると期待される。

作業手順

文字化されたデータから「あの一」と「あの一」の例を選んだ。ただし文脈をみて、指示詞と判断された例は省いた。

以下のグラフの読み取りに際しては、第 3 次調査が録音され、言い淀みも含めて忠実に文字化されたという事情を考慮すべきである。

反応文の文字化方針については、阿部貴人(2010 : 37) (= 国立国語研究所 2010 科研報告書・第 2 分冊の 37 ページ) に概略が記してある。

作業手順(阿部私信)

阿部私信によれば以下のような詳しい事情があった。作業用として記しておく。

(3) フィラーの扱いについて

どこまでを反応文内のフィラーと見るかが課題である。

【下に挙げる例は、下線部が質問に対する回答(=反応文)を示す】

(a) エート, ココオ マッスグ ッテ イーマス

⇒ 反応文内でのフィラー(=引用)

(a') エート, ココオ マッスグ ッテ イーマス

⇒ 調査場面でのフィラー(=発話時)

(b) アッ, カサ ワスレテマスヨ ッテ イーマス

⇒ 反応文内でのフィラー (=引用)

(b') アッ, カサ ワスレテマスヨ ッテ イーマス

⇒ 調査場面でのフィラー (=発話時)

□ 例文は発話の冒頭にフィラーが現れた場合であるが、当然、反応文の途中に現れることもある。

□ フィラーの扱いは分析に大きく関わってくる。フィラー自体の分析はもちろんのこと、反応文を機能的要素に分けて分析するうえでも重要である

岡調 08-042

2009/02/27

経年調査班打合せ

以下に、反応文整備の作業手順 (案) を挙げる。

(A) 作業担当者

(A-1) インフォーマントが回答した発話を聞き取り、そこで現れるものすべてを反応文として扱う (どちらのフィラーであるかはあえて判断せずに、入力された反応文データを補完する)。

(A-2) 同時に、決められた基準に合うように、入力データの修正を行う (分かち書きルールの徹底など。調査員の書き間違いの修正等も含む)。

(B) 研究者担当者

研究者が (1) で整理されたデータをすべて聞き直し、最終的に反応文とする部分を決め、入力データを整備する。

(4) 語断片 (word fragment), 言い間違いについて

(4-1) 語断片は、入力しない方針をとる。

(a) ワ, ワタシガ … ⇒ 語の断片化

(b) コノミチノ, オ (目的格”を”) マッスグ ⇒ 機能語の断片化

(4-2) 言い間違いも入力しない。

(c) コノミチオ ミギニ アッ イヤ ヒダリニ… ⇒ 言い間違い

(5) その他

(5-1) 長音の表記

特に、節末の長音については、調査員によって付ける／付けないが分れている。

センゲツブンワ {ハラッテルノデ/ハラッテルノデー}

→ (案) 敬語に関わる可能性のある要素である。分析に活用することを考えて、付けるべきか (ただし、この現象の分析にあたっては、分析者自身が聞き直すべきであるが)。

(5-2) 固有名詞

コノコドモワ ワタクシノ マゴデス ユーセート イイマス ユーセークン ゴアイサツシ
ナサイヨ <0399>

→ (案) ○○ (人名)

(5-3) ドコドコ, ナニナニサン, マルマルサン, ダレダレの扱い

ドコドコノ ナニナニサンガ チョット キュービョーナノデ <0430>

→ (案) ○○ (住所) ノ △△ (人名) サンガ キュービョーナノデ

※ 一つ目は○, 二つ目は△, 三つ目は□で表記。

なお、フィラーの扱いについては、下記のような手順をとりました。

(1) 調査後、各調査員が録音を聞きとって調査票に反応文を書く時点では、できるだけすべてを書き写す。(どこまでが反応文かは調査員は判断しない)

(2) 添付資料のように、研究者が録音を聞き直して、反応文に含めてよいフィラーであるかどうかを判断し、反応文を確定する。(添付ファイルの3ページあたり)

こういったルールは第2回調査までではなく、これが原因でフィラーが増えることが予想され、経年調査班(当時)も数か月にわたって議論しました。

結局、敬語という語彙的範囲を超えて、待遇表現、敬意表現、配慮表現、ポライトネスで見ると場合にはフィラーも重要だろうという結論に至り、第3回調査でフィラーが急増するかもしれないことは承知のうえで、上記のようなルールとした経緯があります。

なお、反応文に含めてよいフィラーについても、(昨日も話題にした)呼びかけの「あの一」なのか、いわゆる形式検索の「あの一」なのかは、反応文整理の段階では不問としました。機能的要素として分析する場合には当然分ける必要があるわけですが、そのあたりは分析者に委ねたわけです。

例)

よびかけ：あの一、すみません…

形式検索：あの一、何て言ったかな…

以上、ご参考まで。

(阿部私信)

第1回～第3回調査のデータを整理した(あくまで)印象としては、第1回調査は研究者でもフィラーは記録しなかったのではないかという気がしています。やはり、録音をとっておらず、その場で反応文を書くとなると、フィラーよりも実質的発話の記録を優先するしかなかったのだと思います。

ちなみに、第1回～第3回調査の調査票は、各場面の設問(質問文)のあとに予想回答反応文を記してあって、医者場面以外は「あの一」を記していません。調査員が「医者場面以外はフィラーを記録しなくてよいのだ」と判断した可能性もあります。

(特に第1回・第2回調査の調査票は、その予想反応文の一部に下線を引いてあり、最低限下線部分だけは記せ、という指示があったようです)

なお、「丁寧さの段階付け」についても、次のような手順があった。

3段階方式の基準：国立国語研究所（1983：62）より

表1

段階1	(…)デゴザイマス, (…シテ)イタダキマス, (…シテ)クダサイマセ, イラシテクダサイ, イラッシャイマセ, のように, 大体二つの高い敬語形式の結合から成るもの。およびそれより丁寧な形。
段階2	…デス, …マス, (…シテ)クダサイ, イラッシャイ, のように, 「です・ます調」や一つの高い敬語形式から成るもの。
段階3	…ダ, …ヨ, …シテ(依頼), …シロ, 言い捨て(例えば「電報用紙!」), のように, 高い敬語形式がないとみられるもの。およびそれよりさらに乱暴な形。 …シテクレ, …シテモラオウ, のように, 簡単な頼む言い方や, オクレ, オイデ, …(シ)ナサイ, のように目下などにしか使わない言語形式。

1. 「あの一」 グラフ解説

図 1-1 11 場面全体 場面ごと調査次

以下では資料集の各グラフについて解説を加える。

図 1-1 に 12 場面全体の「あの一」の出現頻度推移を示した。右上がり、全体として約半世紀の増加傾向を示す。ただし「あの一」使用が多くなったと、すぐには判断できない。しかし第 1 次から第 2 次にかけて増えていること、第 1 次の C と P の違いが見られないことなどは重要である。のちに詳論する。

図 1-2 11 場面全体 場面ごと調査次

図 1-2 は 11 場面個々の推移を示す。横軸は 3 回の調査の間隔、実時間（19 年と 36 年）に合わせた。大多数の場面で「あの一」使用増加を示す。

どの場面で多いかは、図 2-2、2-3 のほうが分かりやすい。「医者、席譲られ」の 2 場面が他と離れて、多くなる。

図 2-1 11 場面全体 調査次ごと年代

図 2-1 の生年実年代による 12 場面全体のグラフからは、多くの読み取りができる。録音に基づき忠実に文字化された第 3 次調査の結果をまず読み取ろう。「あの一」使用は、中年以上の世代が多い。相手への配慮だけが使用の原理だとしたら、年をとるほど年下、目下の人が増えるわけだから（ただし話し相手になるわけではない）、言い淀みの「あの一」は減るはずである。待遇表現としてではなく、年をとって適切な単語や表現が出なくなったための言い淀みの可能性も大きい。

しかし第 1 次、2 次の年齢差をみると、わずかな違いだが、むしろ若い世代が「あの一」をよく使う。解釈はのちに。

第 1 次調査の調査員は P (proper or professional) と C(control or college)に分かれる。第 1 次調査の報告書では両者の結果を比較して、大きな差がないことを確かめた上で、P (のみ) を優先的に扱っている。ところが今回「丁寧さ」や「ていただく」の分析をしてところ、P と C に大きな違いが見られた。C つまり愛知学芸大学の学生を相手にしたときのほうが、あまりかしこまった言い方でない答えが得られている。時代の推移からみると、より古い段階をとらえている。文の長さ（字数）も短い。学生調査員が忠実に書きとらなかつたという疑いもあった。しかし今回の結果をみると、P も C もほぼ同様の結果を記録している。学生調査員が言い淀みの部分を書きとらなかつたという推測は、あてはまらないようである。なお後述図 5-1 の性差は P と C が同じ値である。また図 7-1 の学歴差では P と C の違いが逆に反映している。詳しくはのちに解説を加える。

図 2-2, 図 2-3 11 場面全体 場面ごと 調査次散布図

図 2-2, 図 2-3 では、散布図を用いて、第 2 次、第 3 次で増加した場面を見分けやすく示した。対角線の左上【右下】は「あの一」が増えた【減った】場面である。図 2-2 によれば、ほぼ全項目で第 2 次調査で増加が見られた。「議事堂、医者」で増えた。依頼場面で、相手への遠慮の意識が強くなる場面である。

図 2-3 によれば、ほぼ全項目で第 3 次調査で顕著な増加が見られた。同じく「議事堂、医者」で増えた。例外は「傘忘れ」である。ただし文字化の忠実さの反映でもある。

図 3-1~6 図 4-1~6 場面別調査次ごと年代

図 3~4 では、場面ごとに生年実年代のグラフを示した。場面ごとの計 100 年近くの推移が分かる。忠実に文字化された第 3 次の太線だけを先に考察しよう。大多数の場面で高年層ほど多い。「議事堂、医者、席譲られ、傘貸し、道教え」などで特に値が大きい。「魚釣り」というこどもに話しかける場面ではほとんど使われない。「傘忘れ、おつり」もそれほど心理的な負担の度合いが大きくない。待遇表現として機能していると考えてよい。

第 1、2 次の結果をその目でみると、線の傾きが一定でない。第 2 次の若い世代に向けて増加傾向が読み取れる場面が大部分で、例外は「席譲られ、傘貸し」などである。

図 5-1 外的 社会項目 性別

図 5-1 では性差を扱う。男女ともに増えている。性差の間隔は平行的である。第 1 次の P と C の値がよく似ているのは、双方のデータの信頼性を語ると解しよう。

図 5-2~4 外的 社会項目 性別

図 5-2~4 では性差の場面による違いを調査次別に見る。散布図によれば、第 1 次でも第 2 次 3 次でも女性に多い。第 3 次で右上に広がっているのは、忠実に文字化されて多く記録されたからだろう。場面ごとの広がりが大きくなった。「ですます 文末」の使い分けでも出た傾向である。実際に半世紀（生年を考えると 1 世紀）の間に場面や人間関係のとらえ方が変化して、多様化したとも考えられる。

図 6-1~4 外的 社会項目 性別、調査次別

図 6-1~4 では性差の場面による違いを調査次ごとに細分して見る。4 枚のグラフをくらべると、図 6-4 の散らばりが大きい。第 3 次では女性が「あの一」を多く使ったことを意味する。その目でみると、第 2 次でも、第 1 次でも女性の広がりが大きい。この傾向にはこれまで気づけなかった。俗説では女性は言語能力が高く、談話もたくみで、よくしゃべ

り、言い淀みが少ないと思われる。しかし場面により相手との心理的距離を調節した表示する現象として「あの一」をとらえると、女性に目立つことを意味する。

細かく場面をみると、ここでも「医者、席譲られ」での増加が目立つ。

図 7-1 学歴別

図 7-1 以下では学歴差を扱う。第 3 次の結果によると、低学歴ほど「あの一」使用が多い。第 1、2 次では学歴ときれいな関係を見せない。なお第 1 次の C は、高学歴ほど「あの一」が多く、第 3 次の忠実に文字化された結果と逆である。解釈が難しい。

図 7-2 高学歴 学歴別

図 7-2 によれば、生年実年代による年代差がある。高学歴の高年層で多かったが、第 3 次には若年層がほとんど使わない。変化の可能性があり、待遇表現として活用するにふさわしい年齢、階層に達していない可能性もある。つまり成人後採用が言い淀みにもあるかという課題に結びつく。

図 7-3 中学歴 学歴別

図 7-3 によれば、中学歴では順調に増えている。

図 7-4 低学歴 学歴別

図 7-4 によれば、第 1、2 次では低学歴はあまり使わなかった。第 3 次の忠実に文字化された結果では、高年層で際立った。

図 8-1~6 学歴別 散布図 調査次

図 8-1 以下で各場面を個別に見る。最初に下段の図 8-5、8-6、9-3 で第 3 次の忠実に文字化された結果を見よう。右下低学歴に多い。中学歴と高学歴の差は小さい。「医者、席譲られ」が多く、「魚釣り」で少ない。

上の段の第 1 次の学歴差をみると、3 枚のグラフとも右下に固まり、使用頻度も少ないし、学歴差も少ない。中段の第 2 次の学歴差をみると、3 枚のグラフで一定の傾向を示さない。「議事堂」という東京での道聞き場面では中学歴が多く「あの一」を使う。相対的に見て、学歴からは系統だった傾向が見出せない。

以上言い淀みの典型として、「あの一」を見た。他の言い淀み表現に広げて考察する予定だが、速報として公にする。

参考文献

- 阿部貴人(2010)＝ 国立国語研究所 (2010) 第2分冊
- 井上史雄(2008.5)『社会方言学論考---新方言の基盤---』(明治書院)
- 井上史雄(2011.12)『経済言語学論考一言語・方言・敬語の値打ち一』明治書院
- 井上史雄 (2012.9)「岡崎敬語の現代史」日本語学 31-11 pp.2-13
- Inoue, Fumio (2013.4.2) "A Contemporary History of Okazaki Honorifics – Democratization and te- itadaku –"
<http://www.ninjal.ac.jp/socioling/nwavap02/Inoue-NWAVAP2-2013.pdf> pp.1-9 ("Working Papers from NWAV Asia-Pacific 2 ")
- 井上史雄 (2013.11)『岡崎敬語調査資料集 1』 Material for Okazaki Survey of Honorifics, 岡崎「ていただく」の増加 Increase of “te itadaku”in Okazaki 国立国語研究所 National Institute for Japanese Language and Linguistics
- 井上史雄・松田謙次郎・金順任 (2012.11)「岡崎 100 年間の「ていただく」増加傾向—受惠表現にみる敬語の民主化—」国立国語研究所論集第4号 pp.1-25
- 北野浩章 (2014)「日本語とカパンパンガン語のフィラー」日本語学 33-7: 78-88
- 国立国語研究所 (1958)『敬語と敬語意識』(秀英出版) .
- 国立国語研究所 (1983)『敬語と敬語意識 — 岡崎における 20 年前との比較—』(三省堂) .
- 国立国語研究所 (2010)『敬語と敬語意識—愛知県岡崎市における第三次調査—』科学研究費補助金研究成果報告書 第1~4分冊.
- 後藤真孝, 伊藤克亘, 速水悟(1999)「自然発話中の言い淀み箇所のリアルタイム検出システム」情報処理学会研究報告. SLP, 99(64): 9-16
- 杉戸清樹 (1983)「待遇表現としての言語行動: 注釈という視点」日本語学
- 土屋菜穂子 (2000)「対話コーパスを用いた言い淀みの統語論的考察」青山語文 30: 13-26
- Matsuda, Kenjiro (2012) What happened to the honorifics in a local Japanese dialect in 55 years: A report from the Okazaki Survey on Honorifics, *University of Pennsylvania Working Papers in Linguistics* 18-2
- 松田 謙次郎(2014)「形態素解析の大規模言語調査データへの応用—岡崎敬語調査パネルデータにおける名詞・代名詞・動詞の相対頻度に対する話者性別効果の検証—」『国立国語研究所論集』第7号
- 山根智恵 (2002)『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版

岡崎敬語調査 あの平均使用数

Okazaki Survey on Honorifics Average usage rate of '2'

11場面: 101道教え~111傘貸し

11 contexts: 101 Tell the way --- 111 Lend umbrella

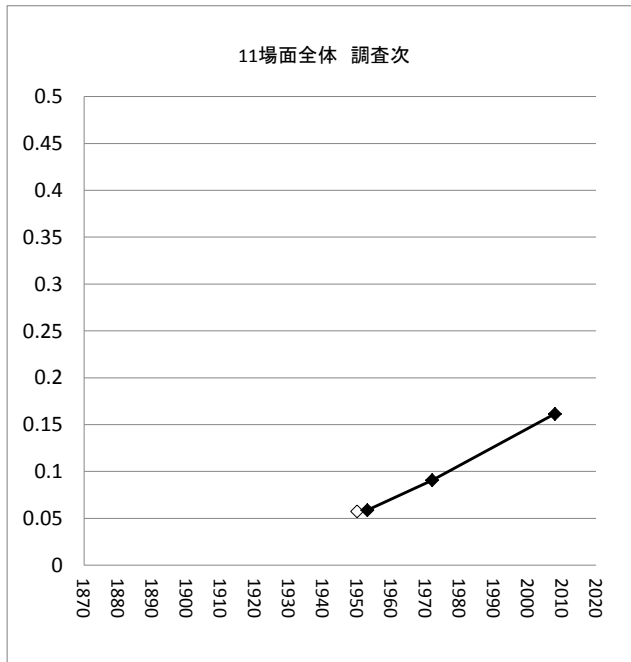


図1-1 11場面全体 調査次 (◆: プロパー、◇: コントロール)

Figure 1-1 In all the 11 contexts, by year of survey (◆: proper or professional ◇: control or college)

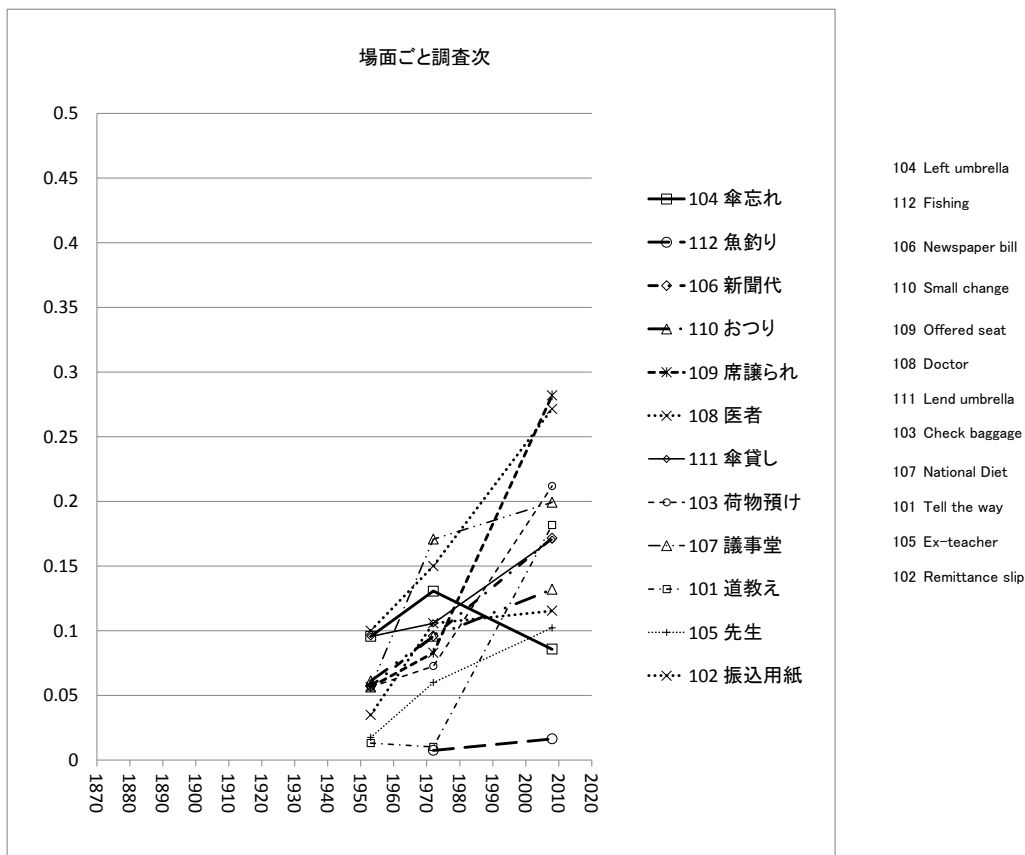


図1-2 場面ごと調査次 (プロパーのみ)

Figure 1-2 In each context, by year of survey (proper or professional only)

岡崎敬語調査 あの平均使用数 11場面全体調査次ごと年代

Okazaki Survey on Honorifics Average usage rate of '2'
 11場面: 101道教え~111傘貸し
 年代: 1次10代~50代、2次&3次10代~70代

All the 11 contexts by generations of three surveys
 11 contexts: 101 Tell the way --- 111 Lend umbrella
 Generations: first survey 10's - 50's; second and third surveys 10's - 70's

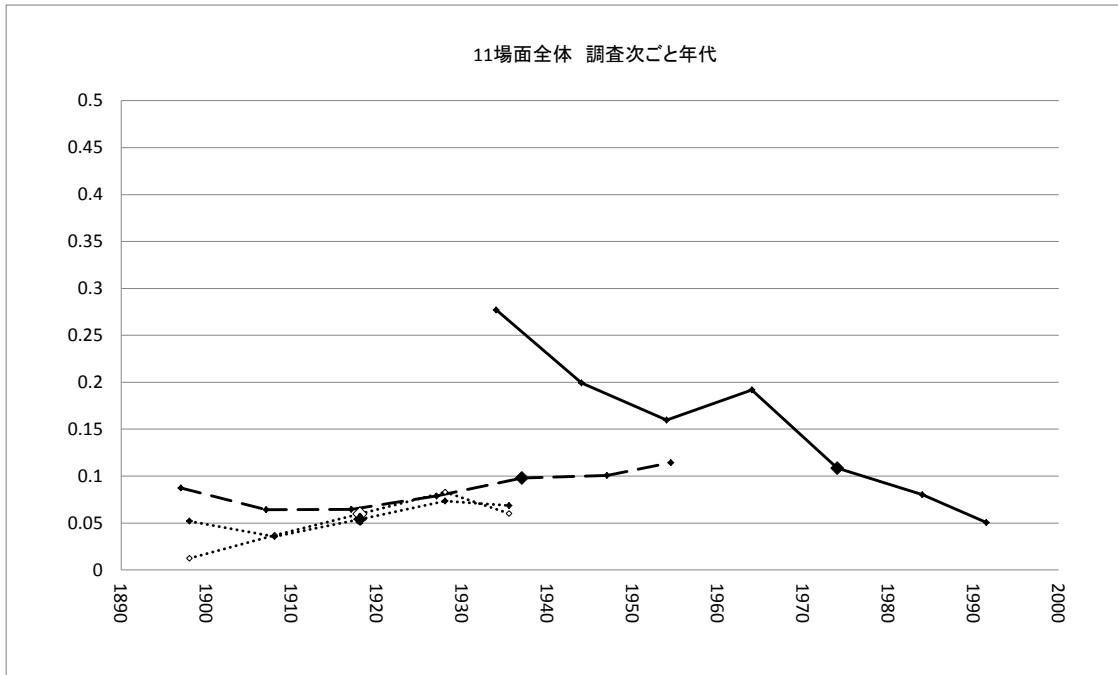


図2-1 11場面全体 調査次ごと年代 (◆: プロパー、◇: コントロール)
 Figure 2-1 All the 11 contexts, generations of three surveys (◆: proper or professional ◇: control or college)

岡崎敬語調査 あの平均使用数の散布図 場面ごと調査次(プロパーのみ)

Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average usage rate of '2' In each context, by year of survey (proper or professional only)

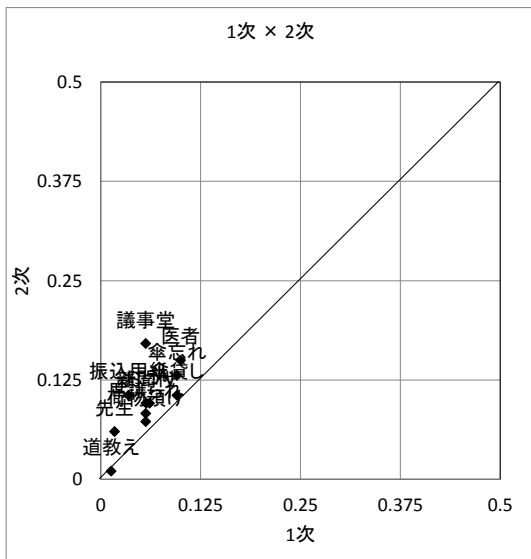


図2-2 場面ごと1次×2次 (プロパーのみ)
 Figure 2-2 2nd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

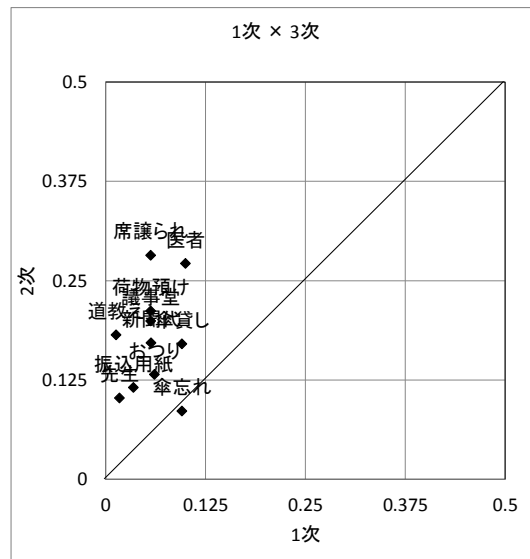


図2-3 場面ごと1次×3次 (プロパーのみ)
 Figure 2-3 3rd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

岡崎敬語調査 あの平均使用数 場面別調査次ごと年代

Okazaki Survey on Honorifics Average usage rate of '2' In each context, by generations, year of survey

場面：縦に第3次平均使用数順 Context: Figure No. is given in order of the average usage rate in the third survey.

年代：1次10代～50代、2次&3次10代～70代

Generations: first survey 10's - 50's; second and third surveys 10's - 70's

◆: プロパー、◇: コントロール
 (◆: proper or professional ◇: control or college)

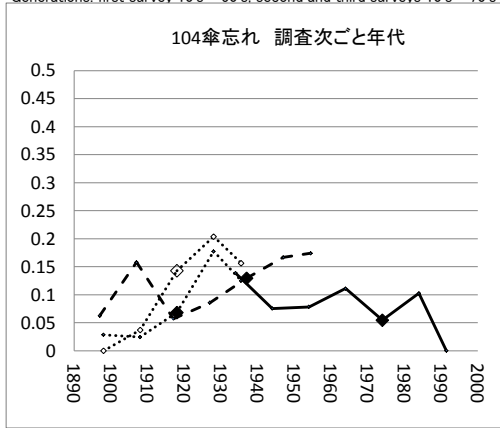


図3-1 104傘忘れ 調査次ごと年代
 Figure 3-1 In 104 Left umbrella, by year of survey, generations

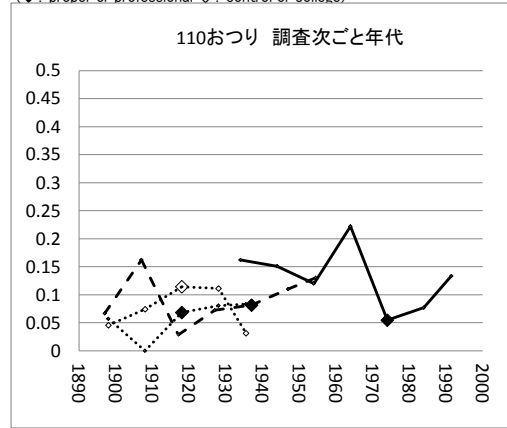


図3-4 110おつり 調査次ごと年代
 Figure 3-4 In 110 Small change, by year of survey, generations

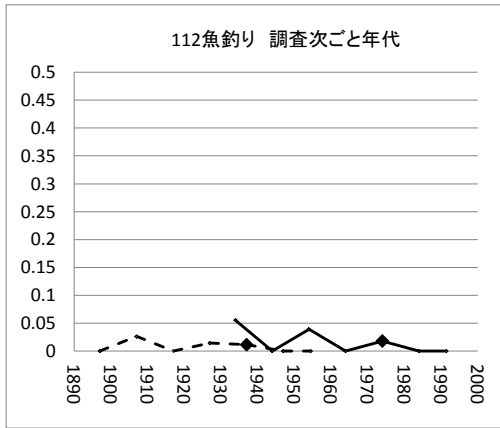


図3-2 112魚釣り 調査次ごと年代
 Figure 3-2 In 112 Fishing, by year of survey, generations

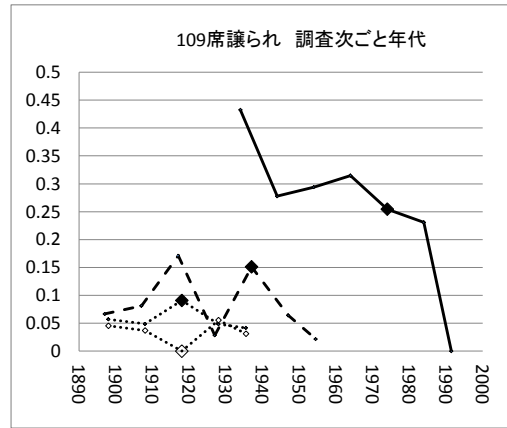


図3-5 109席譲られ 調査次ごと年代
 Figure 3-5 In 109 Offered seat, by year of survey, generations

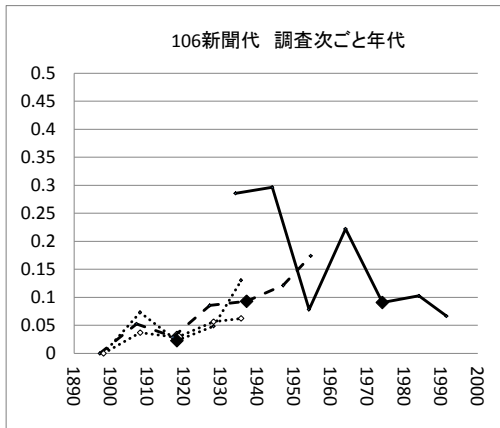


図3-3 106新聞代 調査次ごと年代
 Figure 3-3 In 106 Newspaper bill, by year of survey, generations

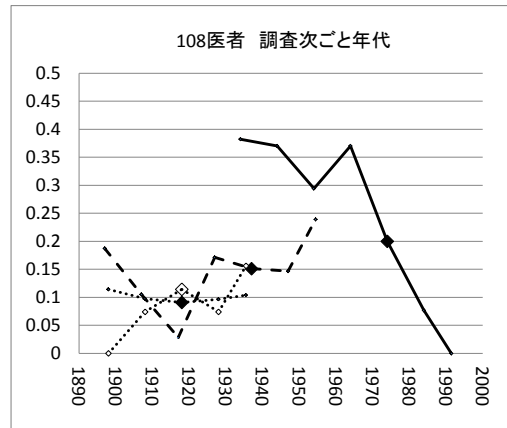


図3-6 108医者 調査次ごと年代
 Figure 3-6 In 108 Doctor, by year of survey, generations

岡崎敬語調査 あの平均使用数 場面別調査次ごと年代 (続き)

Okazaki Survey on Honorifics Average usage rate of '2' In each context, by generations, year of survey (continued)

場面: 縦に第3次平均使用数順 Context: Figure No. is given in order of the average usage rate in the third survey.

年代: 1次10代~50代、2次&3次10代~70代

◆: プロパー、◇: コントロール

Generations: first survey 10's - 50's; second and third surveys 10's - 70's ◆: proper or professional ◇: control or college

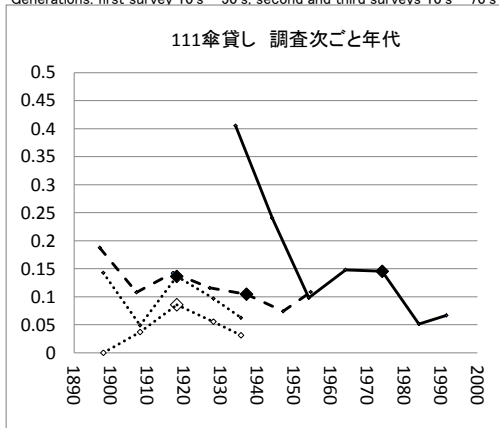


図4-1 In 111 Lend umbrella, by year of survey, generations
Figure 4-1 In 111 Lend umbrella, by year of survey, generations

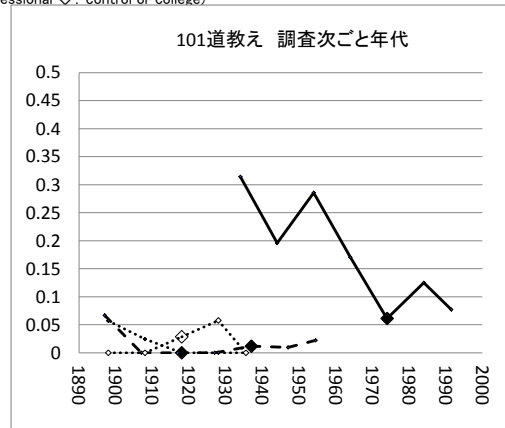


図4-4 In 101 Tell the way, by year of survey, generations
Figure 4-4 In 101 Tell the way, by year of survey, generations

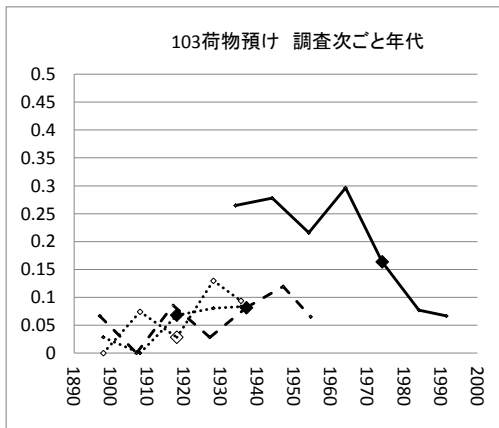


図4-2 In 103 Check baggage, by year of survey, generations
Figure 4-2 In 103 Check baggage, by year of survey, generations

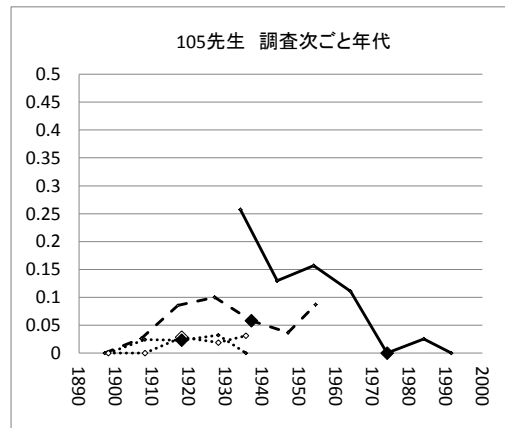


図4-5 In 105 Ex-teacher, by year of survey, generations
Figure 4-5 In 105 Ex-teacher, by year of survey, generations

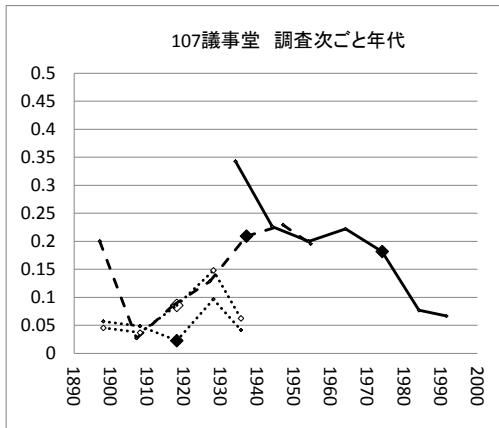


図4-3 In 107 National Diet, by year of survey, generations
Figure 4-3 In 107 National Diet, by year of survey, generations

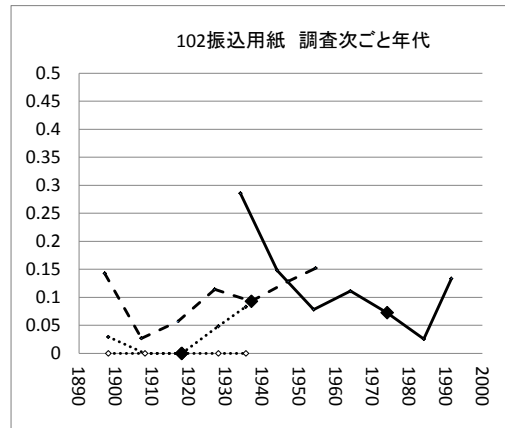


図4-6 In 102 Remittance slip, by year of survey, generations
Figure 4-6 In 102 Remittance slip, by year of survey, generations

岡崎敬語調査 あの平均使用数とその散布図
Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average usage rate of '2'

11場面全体 性別ごと調査次
All the 11 contexts, by gender, year of survey
11場面: 101道教え～111傘貸し
11 contexts: 101 Tell the way — 111 Lend umbrella
◆: プロパー、◇: コントロール
◆: proper or professional ◇: control or college

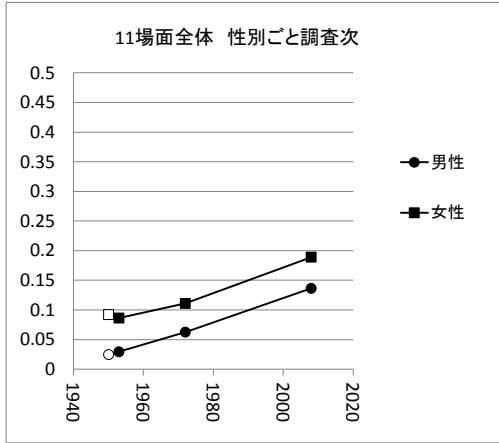


図5-1 11場面全体 性別ごと調査次
Figure 5-1 In all the contexts, by gender, year of survey

調査次別 場面ごと性別(プロパーのみ)
By year of survey, in each context, by gender (proper or professional only)

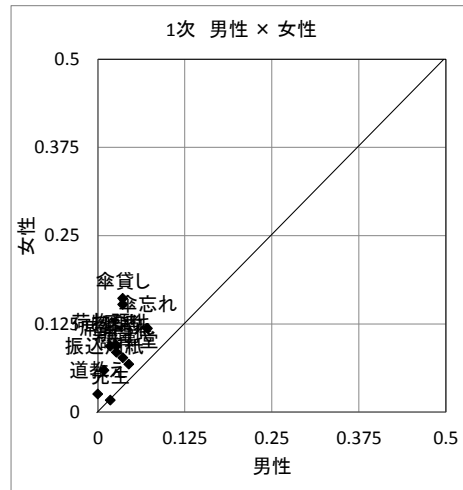


図5-2 1次 場面ごと男性×女性 (プロパーのみ)
Figure 5-2 1st survey, in each context, female against male (proper or professional only)

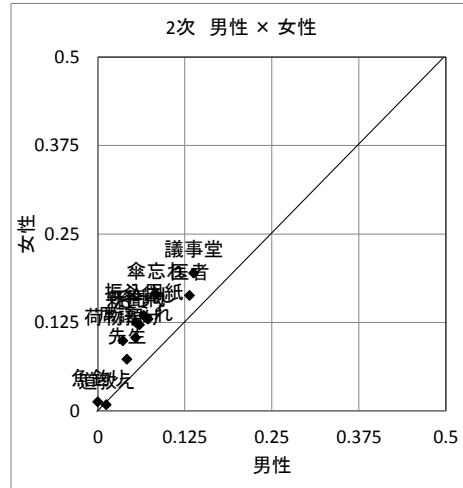


図5-3 2次 場面ごと男性×女性 (プロパーのみ)
Figure 5-3 2nd survey, in each context, female against male (proper or professional only)

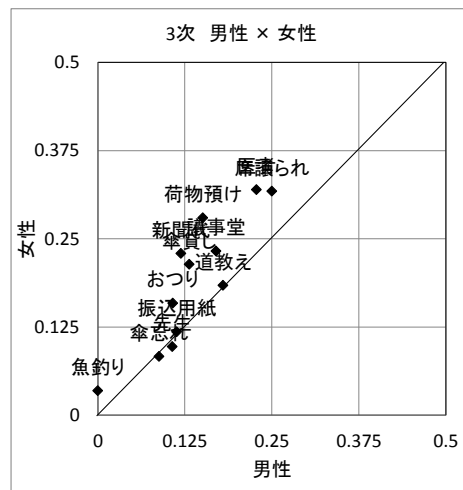


図5-4 3次 場面ごと男性×女性 (プロパーのみ)
Figure 5-4 3rd survey, in each context, female against male (proper or professional only)

岡崎敬語調査 あの平均使用数の散布図 男女別 場面ごと調査次(プロパーのみ)
 Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average usage rate of '2' By gender, in each context, by year of survey (proper or professional only)

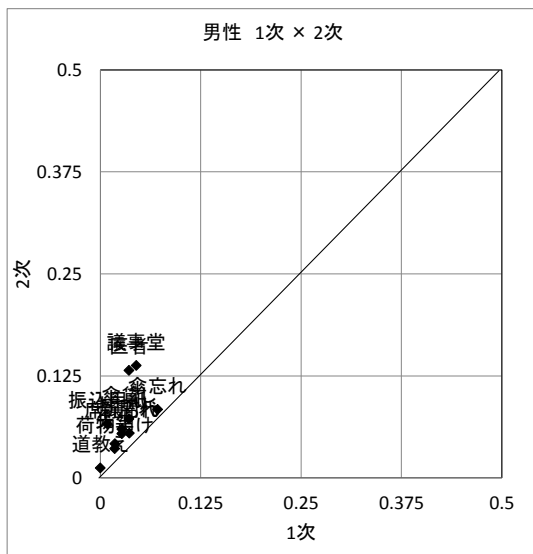


図6-1 男性 場面ごと1次×2次 (プロパーのみ)
 Figure 6-1 Male, 2nd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

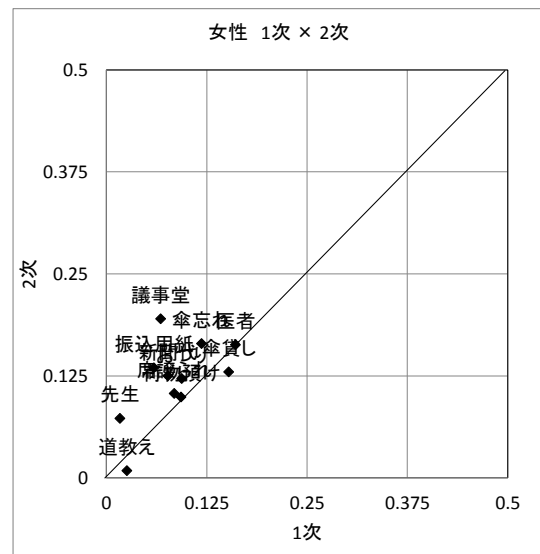


図6-2 女性 場面ごと1次×2次 (プロパーのみ)
 Figure 6-2 Female, 2nd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

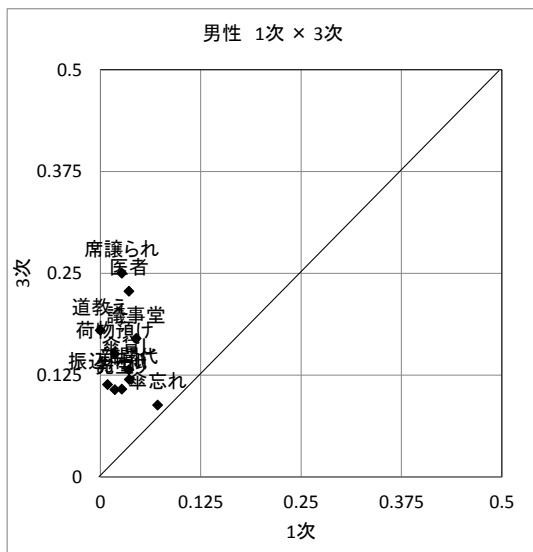


図6-3 男性 場面ごと1次×3次 (プロパーのみ)
 Figure 6-3 Male, 3rd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

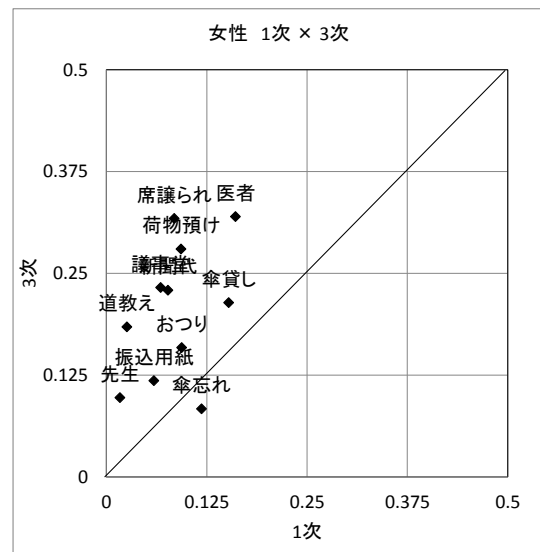


図6-4 女性 場面ごと1次×3次 (プロパーのみ)
 Figure 6-4 Female, 3rd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

岡崎敬語調査 あの平均使用数
Okazaki Survey on Honorifics Average usage rate of '2'

◆: プロパー、◇: コントロール
◆: proper or professional ◇: control or college

11場面全体 学歴ごと調査次
All the 11 contexts, by academic background, year of survey
11場面: 101道教え～111傘貸し
11 contexts: 101 Tell the way --- 111 Lend umbrella

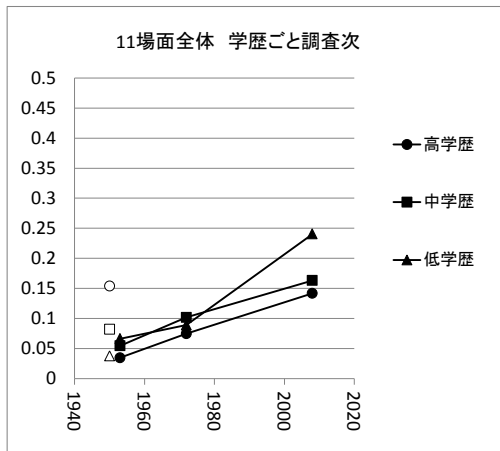


図7-1 11場面全体 学歴ごと調査次
Figure 7-1 In all the contexts, by academic background, year of survey

学歴別調査次ごと年代
By academic background, generations, year of survey
年代: 1次10代～50代、2次&3次10代～70代
Generations: first survey 10's - 50's; second and third surveys 10's - 70's

無回答 No response
高学歴: 1次P10代、1次C10代、2次70代
High education: 1st, proper, 10's; 1st, control, 10's; 2nd, 70's
中学歴: 2次70代 Middle education: 2nd, 70's
低学歴: 3次20代、3次40代 Low education: 3rd, 20's and 3rd, 40's

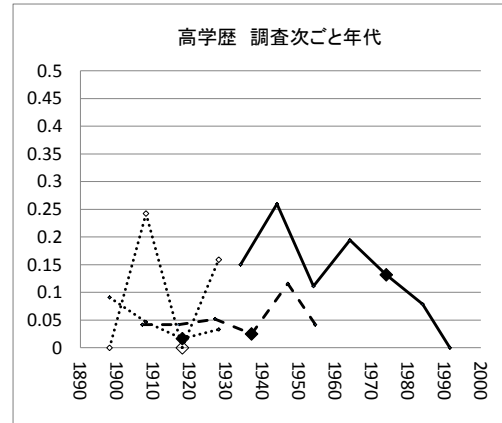


図7-2 高学歴 調査次ごと年代
Figure 7-2 High education, by year of survey, generations

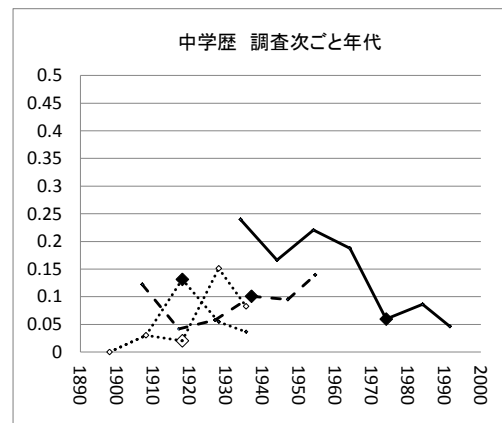


図7-3 中学歴 調査次ごと年代
Figure 7-3 Middle education, by year of survey, generations

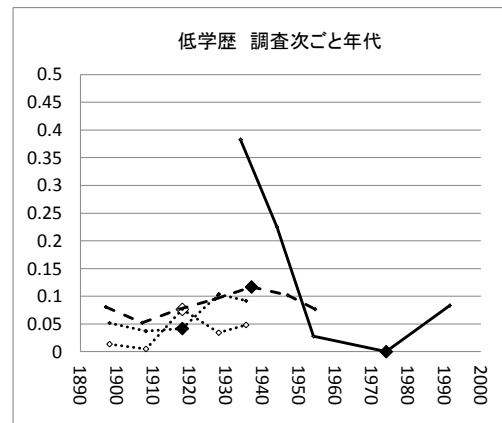


図7-4 低学歴 調査次ごと年代
Figure 7-4 Low education, by year of survey, generations

岡崎敬語調査 あの平均使用数の散布図 調査次別 場面ごと学歴(プロパーのみ)

Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average usage rate of '2' By year of survey, in each context, by academic background (proper or professional only)

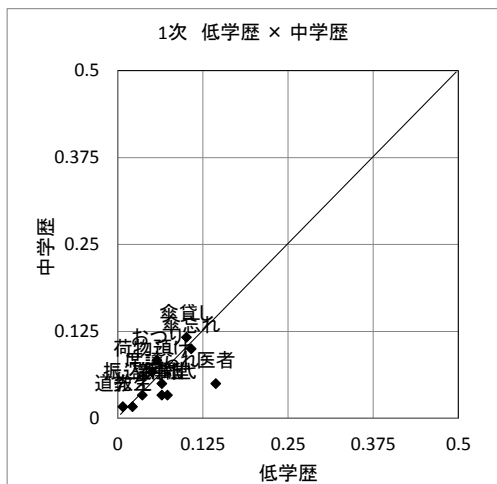


図8-1 1次 場面ごと低学歴×中学歴 (プロパーのみ)

Figure 8-1 1st survey, in each context, middle against low education (proper or professional only)

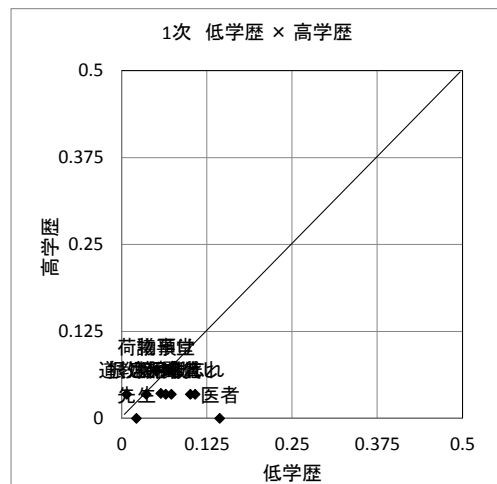


図8-2 1次 場面ごと低学歴×高学歴 (プロパーのみ)

Figure 8-2 1st survey, in each context, high against low education (proper or professional only)

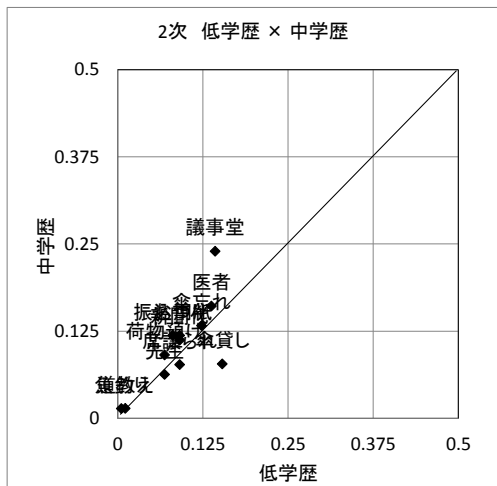


図8-3 2次 場面ごと低学歴×中学歴 (プロパーのみ)

Figure 8-3 2nd survey, in each context, middle against low education (proper or professional only)

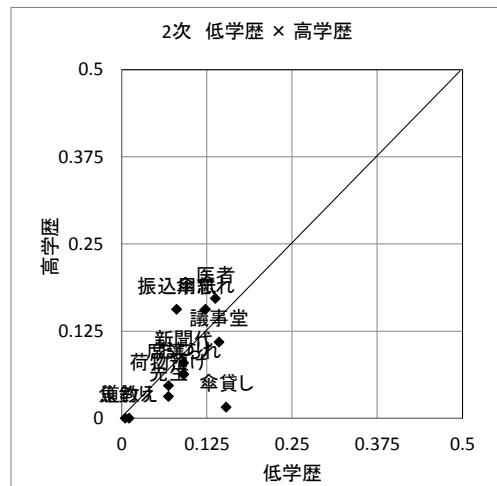


図8-4 2次 場面ごと低学歴×高学歴 (プロパーのみ)

Figure 8-4 2nd survey, in each context, high against low education (proper or professional only)

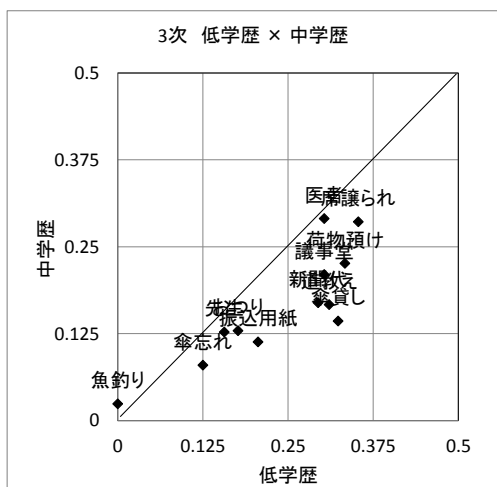


図8-5 3次 場面ごと低学歴×中学歴 (プロパーのみ)

Figure 8-5 3rd survey, in each context, middle against low education (proper or professional only)

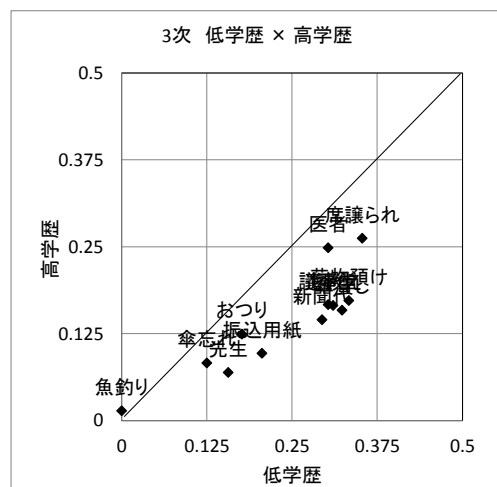


図8-6 3次 場面ごと低学歴×高学歴 (プロパーのみ)

Figure 8-6 3rd survey, in each context, high against low education (proper or professional only)

岡崎敬語調査資料集 10

Material for Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

岡崎の言い淀み

“Hedge” in Okazaki

(Ver. 1.1)

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

著： 井上史雄

INOUE Fumio

発行：平成26年6月9日 9 June 2014

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2 Tel. 042-540-4300 (代)

10-2 Midori-cho, Tachikawa City, Japan 190-8561